

# 学校法人五島育英会 学校評価制度

## 平成 27 年度 実施計画書

別紙 2  
大学を除く  
学校用

<b>学校名：東京都市大学付属中学校・高等学校</b> <b>校長名：小野 正人</b>
<b>I 目指す学校（4年後の達成目標を数値化及び状態による明示）</b>
(1) 新コース制のもと、新たな教育プログラムによって学力の向上を図り、創造力・思考力・表現力および人間力を備えた人材を育成する学校。 (2) 明るく元気な中高一貫男子進学校として、大学進学実績を飛躍的に高める学校。 (3) 様々な行事をとおして、国際理解を深めると共に、たくましく生きる力を育む学校。

### II 平成 27 年度の目標と方策

分野	教育設計に関する分野	学校構想、連携交流
本年度の達成目標	具体的取組みと方策	責任担当部署
新コース制の確立を図り、学力の向上を目指す。	25 年度中 1 から導入したコース制（Ⅱ類・Ⅰ類）も 3 学年が揃う。対応する新シラバス（前期・中期）による教科指導および補習・講習等の実践を通じて、学力の向上を図るとともに、28 年度以降の中期・後期プログラムの作成に当たる。 新しい大学入試に関する情報の収集と共有化を図り、教育プログラムの構築を推進する。	学校経営会議 教務部 進路部
国際理解教育の推進	国際理解教育推進のために、新たに導入する高 1 北米研修旅行・中 3 京都奈良研修旅行のプログラム作成等検討に入る。 今年度より実施予定のマレーシア研修の実施に向けて具体的な作業に入る。（※世界情勢により中止することもある。代替策無し。） 中学 1 年の帰国生対象の取り出し授業の実践を通じて、中 1、2 学年のプログラムの構築を図る。	学校経営会議 国際部 英語科
ICT を活用した教育の推進	27 年度に全教諭に 1 人 1 台のタブレットを貸与する。この機器を各教員・各教科等で試用し、28 年度以降に ICT を活用した授業等の導入を目指す。	学校経営会議 教務部 各教科
学校間の連携・交流を図る。	等々力中高・塩尻高校と学習・進路に関する情報交換・協議を行う。 クラブ活動では、系列校と野球部・バスケット部・サッカー部・自動車部・吹奏楽部などの交流を発展させる。	学校経営会議 進路部 生徒部（生徒会 G）

分野	学力向上に関する分野	授業、補習・講習、模試、英検・漢検
本年度の達成目標	具体的取組みと方策	責任担当部署
外部模擬試験・校内実力試験（中学）について再検討し、学力の向上を図る。 定期試験・外部模擬試験等の結果を綿密に検証する。	外部模試（中学・高校生対象、年数回実施）については、模試の種類、実施回数・時期、事前事後の指導方法等を検討する。特に、模試を変更する高3について、その結果分析を詳細に行う。	進路部
	年5回の定期試験ごとに試験問題及び結果の分析を各教科で実施し、教科指導の改善・推進を図る。	各教科
	試験結果について、各教科・進路部等で分析し、学習到達状況と課題を明確にする。さらに、外部講師による模試分析報告会を模試ごとに実施する（年間5回以上）など、効果の検証を工夫する。	進路部 各教科
補習・講習、学習合宿の改善を図る。	日常補習や夏期・冬期講習については、実施報告書の提出、教科内検討等を行い、改善を図る。 学習合宿の指導内容の検討を行い、改善を図る。 高校の希望制の応用合宿は、3学年で同じ施設（富士宮）で実施する。	学校経営会議 進路部 各教科
自習室（20時まで）の活用を図る。	24年度2学期から開始した自習室はより多くの生徒が活用できるような工夫を考案し、利用者が1日平均30名以上を目指す。	学校経営会議
英検・漢検の上級取得率を高める。	英検対策講座を強化し、中2英検3級以上取得（90%以上）、中3英検準2級以上取得（70%以上）、高1英検2級以上取得（40%以上）を目指す。	英語科
	国語の授業内での漢字指導を強化し、中2漢検3級以上取得（80%以上）、中3漢検準2級以上取得（30%以上）、高1漢検準2級以上取得（50%以上）を目指す。	国語科
中3キャリアスタディと高1中期修論を通じて、将来の目標を明確にし、学習意欲の向上を図る。	中3キャリアスタディについては、同窓会と連携し、過去の総括を踏まえて、プログラムの改善を図る。	進路部 中3学年
	高1中期修論については、高1生全員の提出と指導体制を強化し、達成感等の涵養を図る。	進路部 高1学年

分野	教育検証に関する分野	授業力向上、大学進学実績
本年度の達成目標	具体的取組みと方策	責任担当部署
授業力の向上を図る。	生徒による授業評価アンケート（年間2回）を実施する。アンケート項目については、前年度修正をした実技教科を中心に検証を行う。アンケート結果を受けて、教科会議、公開授業を行い、個々の教員の授業力アップにつなげる。公開授業実施者は、各教科で中高各1名以上、年に3回程度実施する。	学校経営会議 各教科
模擬試験の各学年の偏差値の向上を図る。	基礎的な学力の向上を図るとともに、模試対策の事前事後指導を行い、各学年の模試での偏差値の向上を図る。 <全体、各教科・科目の目標値> ・中学（11月 ベネッセ学力推移調査）3科総合偏差値Ⅱ類：平均偏差値62以上、Ⅰ類：平均偏差値56以上 全体偏差値60以上（中1）130名（中2、3）100名 ・高1、高2（1月 進研記述模試）3科総合偏差値平均偏差値56以上、偏差値60以上（高1）100名（高2）80名 ・高3（10月 駿台ベネッセ記述模試）文系・理系共に3科総合偏差値 平均偏差値56以上、偏差値60以上80名、65以上40名。	進路部 各学年 各教科
難関大学現役合格者の増加を図る。	授業や補習・講習での受験対策指導（センター対策、国公立2次対策、難関私大対策）の強化、難関大学志望校別ガイダンス、進路面談等を通じて、高3生のモチベーションを高めて、第1志望校を最後まであきらめないよう指導する。 国公立大：60名（難関国公立大10名以上含む）、早慶上智理科大ICU100名、GMARCH：120名 （*難関国公立大=旧7帝大、東工大、一橋大、国公立大医学部）	進路部 高3学年

分野	生徒活動に関する分野	生徒会活動・クラブ活動
本年度の達成目標	具体的取組みと方策	責任担当部署
生徒の自治活動のさらなる推進を図る。	27年度より中高生徒会組織の一本化にともない、新たに中央委員会が設立される。この中央委員会を軸に、生徒委員会・各常任委員会・各学年委員会及び各ホームルームでの討議・活動の活発化を図り、一般生徒の生徒会活動への主体的関わりを強め、生徒の自治活動のさらなる推進を目指す。	生徒部（生徒会 G）
クラブ活動の活性化を図り、クラブを通しての人間性の育成を図る。	クラブ活動のあり方を再検討し、学習との両立を図る。活動日や活動場所の調整、コーチ制の検証、クラブの統廃合、他校との合同練習や練習試合（都市大グループ関連校の学校間連携を含む）を通じて、クラブ活動の活性化を図る。 大会等の成績目標：体育・文化部、個人・団体：全国レベルの出場2件以上、関東大会の出場5件以上、都大会出場10件以上 クラブ活動を通しての規範意識（挨拶、活動時間の厳守、荷物等の整理など）の向上等を図る。	生徒部（生徒会 G） 各クラブ

分野	入試管理に関する分野	学校説明会、広報ツール
本年度の達成目標	具体的取組みと方策	責任担当部署
帰国生入試に加えてグローバル入試導入を検討し、30名程度の入学者を確保する。	1月に帰国生入試、2月の一般入試に導入したグローバル入試を検証し、更に国際経験のある新入生を迎え入れ、校内の活性化を図る。	入試委員会
中学受験者総数は6年連続で都内1位を維持し、結果偏差値及び入学者の平均偏差値を1ポイントアップを目指す。	校内学校説明会（オープンスクール・過去問チャレンジ・イブニング説明会（夏・冬）・帰国・グローバル説明会を含む）7回、塾主催の説明会複数回、土曜ミニ説明会8回、塾対象説明会（2回）の開催、模試受験会場（5回）、学校外の説明会への参加、学校パンフレット・DVD制作、学校HP更新等で活発な広報活動を展開する。 PRの強化とともに、方法・内容の精選を図り、効率を高める。	入試委員会 広報部
学則定員を満たさない学年の転・編入試験を実施する。	27年度より、帰国生並びに国内転住者対象の転・編入試験を実施する（対象学年は高2、高3）。	学校経営会議 教務部・国際部

分野	その他に関する分野	道徳、校務システム、研修
本年度の達成目標	具体的取組みと方策	責任担当部署
教員の職務を再検討し、生徒指導に関わる時間を確保する。	議題の事前提示などを工夫し、会議の時間の短縮を目指す。	学校経営会議
年2回の三者面談を実施する。	1学期～夏休み終了までには全員の三者面談、2～3学期には希望者の三者面談を実施し、家庭との連携を密にしてより良い生徒指導を実現する。	各学年
生徒の規範意識を高め、行動指針を確立し、道徳心・愛校心を養う。	道徳の授業、行事、ホームルーム活動、委員会活動、クラブ活動、ボランティア活動、始・終業式での校歌斉唱等の実施を通して、道徳心・愛校心を養う。いじめ問題、携帯電話・インターネットの使用法の指導等を通じて人権教育の推進を重点課題とする。中学1年生については入学後すぐに携帯電話の使用法に関する講習会を実施する。また、保護者対象の講習会などを通して、家庭と連携した道徳教育の推進を図る。	生徒部（生活 G） 各学年
校務システムの構築と効果的な運用を図る。	情報関連業者との連携を密にし、本校仕様にカスタマイズし、校務の円滑化を図る。 ハード面とソフト面でのシステムの改善を進める。 教務部内での業務引継を推進する。	教務部 事務室
教員研修制度の積極的な運用を図る。	中核教員研修、長期休暇中の校内研修（夏研・冬研）、自主研修等に参加し、教育力・授業力を高める。	学校経営会議
発達障がいなど指導困難な生徒の支援を図る。	カウンセラーと連携し、発達障がいの生徒の理解を深め、支援を図るための具体的方策の検討を推進する。	学校経営会議
よりよい人事管理を進める。	校内での相互理解と信頼関係の充実を図る。 セクハラ・パワハラ等人権問題が生じないよう研修会への参加など具体的方策を検討する。	学校経営会議
衛生委員会が中心となって、職員の健康維持・増進・病気等の予防に努める。	一昨年設置された衛生委員会が中心となって、産業医と連携を図りながら、健康診断のチェック、校内巡視などを通して職場環境の改善を図り、職員の健康の維持・増進・病気等の予防に努める。	衛生委員会